

第6学年2組 国語科学習指導案

授業日 令和3年6月15日(火) 4校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 桑原 浩二

1 単元名 主張と事例とを捉えて読もう —教材文「時計の時間と心の時間」光村図書6年—

2 本単元の価値

説明的文章「時計の時間と心の時間」(以下、本教材)は、「時計の時間(時計が表す時間)」、「心の時間(私たちが体感している時間)」といった「二つの時間」について説き、「時間との上手な付き合い方」を考えさせる文章である。6年生の中には毎日慌ただしさを感じたり、その中で不安や不満を感じたりする子供も多い。本教材は、そのような子供の不安を和らげると同時に、客観性も身に付けられる。さらには、日々を前向きに生活する態度を養うことができる。文章の構成としては、「始め」「中」「終わり」の基本的な三部構成になっており、「始め」と「終わり」とで筆者の主張を述べる双括型といえる。

本単元では、本教材の内容と既有的知識や様々な経験とを関連付けて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめて伝え合う言語活動を設定する。なお、本単元は、以下に示す学習指導要領国語第5学年及び第6学年の内容における[知識及び技能](2)情報の扱い方に関する事項ア、[思考力・表現力・判断力等]C読むことに関する事項アオカ、言語活動例アを受けて設定した。

第5学年及び第6学年の内容

[知識及び技能](2)情報の扱い方に関する事項

(2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。

[思考力・表現力・判断力等]C読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり文章にまとめたりする活動。

第6学年国語科「読むこと」の学習において、教科書に掲載されている説明的文章の多くは、自己の生き方を見つめることがテーマとなっている。これは、卒業を控える時期であることやキャリア教育といった視点から6年生の子供にとってふさわしい内容といえる。筆者が放つメッセージをどのように捉えて、それをどのように自己の生き方にへ取り入れていけるかが肝要である。

本単元の中核的な内容を「**文章を読んで理解したことと既有的知識や様々な体験とを関連付けて自分の考えを形成すること**」と定める。中核的な内容に向かっていくためには文章全体の構成を確かめ、主張と事例とがそれぞれどの部分に書かれているかを捉え、筆者の主張を的確に理解することが必要である。そのうえで、文章の内容と既有的知識や様々な体験とを関連付けて読むことで表象的な理解や表現に留まらず、自分の考えをまとめたり広げたりすることができる。

このような中核的な内容を獲得した子供は、文章を読んで分かったことや考えたことから自分の考えをよりよく表現することができる。ひいては、日常生活の様々な場面においても自分の考えをまとめる際に役立つのである。

3 本単元で育成する資質・能力

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
・ 主張と事例など情報と情報との関係についての知識・技能	・ 事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて筆者の主張を把握する力 ・ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力	・ 互いの意見や経験の違いを明らかにしたり認め合ったりしようとする態度

4 本実践で目指す姿

友達と対話する活動を通して、筆者の主張に関連のある互いの意見や経験を共有して筆者の主張を捉え、筆者の主張に対する自分の考えをよりよく表現する子供

5 指導計画 全5時間

時	学習活動	子供の姿	☆評価する対象
一次 1	○前单元「笑うから楽しい」で学習したことを振り返る。 ○言語活動の概要を知り，単元の流れを理解する。 ○本教材を読み，語句や新出漢字を確かめ，めあてに沿って初発の感想を書く。	◎筆者の主張を捉えて自分の生き方を考えよう ・「笑うから楽しい」では，筆者の主張が「始め」と「終わり」にあり，「中」に事例が示されていたね。 ・「心の時間」が人によって違うのは分かる気がします。	☆発言，記述 ・文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめる力
二次 2	○文章全体の構成を捉え，筆者の主張とそれを支える事例との関係に着目して筆者の意図を考えて，本教材を音読する。	・「心の時間」について身近な具体例や科学的で確かな事実を事例に挙げているのは，読み手の興味・関心を高めて，主張に説得力をもたせる意図があるからです。	☆発言，記述 ・事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて筆者の主張を把握する力
二次 3 本時	○筆者の主張に対する自分の考えを自分の生活の仕方に焦点化して考える。 ○友達と対話する活動を通して，筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。	・私は，音楽を聴いている時間が大好きです。自分の好きな音楽を聴いていると，あっという間に時間が過ぎてしまいます。しかし，塾の宿題や部屋の片付けなどの苦手なことをしていると，なかなか時間が進まないように感じることはありませんでした。この文章を読んでもみると，楽しいことに夢中になっているときには集中していて，「時計の時間」を気にしないので，「心の時間」がすぐに過ぎることが分かりました。だから，塾の宿題や部屋の片付けといった苦手なことでも，まず楽しいと思ってみることで「心の時間」が今よりも早く過ぎると思うし，「時計の時間」を無駄にしないで過ごしていけるのではないかと考えました。	☆発言，記述 ・主張と事例など情報と情報との関係についての知識・技能 ・文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめる力 ・互いの意見や経験の違いを明らかにしたり認め合ったりしようとする態度
三次 4 5	○自分の考えを發表して，互いに感想を伝え合う。 ○「主張と事例」を読み，主張と事例との関係について理解を深める。 ○本单元全体を振り返る。	・私は，「時計の時間と心の時間」を読んで，人それぞれに「心の時間」の感覚が違うことを意識することが大切だという筆者の主張に共感しました。それは，私にも，友達との「心の時間」の違いを感じた経験があるからです。「心の時間」という考え方を知ることができてよかったと思いました。 ・主張を支える事例には，読み手や聞き手に合わせて分かりやすさが必要です。 ・筆者の主張を捉えて，自分の考えをまとめていくことが大切だと思いました。	☆発言，記述 ・文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめる力 ・互いの意見や経験の違いを明らかにしたり認め合ったりしようとする態度

6 本時の構想

(1) 本時のねらい (本時 3 / 5 時間目)

友達と対話する活動を通して筆者の主張を捉え、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという筆者の主張に対して、これからどんな生活を送っていけばよいか」という焦点化された課題に対する自分の考えをよりよく書き表すことができる。

(2) 展開

「筆者の主張や意図を捉え、自分の生き方について考えよう」という単元のゴールに向けて学習を進めている。一次では言語活動の概要と本単元の流れを確認した後、本教材を音読させ、初発の感想を問うた。子供は、「心の時間」が人によって異なることが理解できるなどといった感想を表出した。その後、二次では文章全体の構成に着眼させたうえで筆者の主張と事例との関係を捉えさせるために、複数の事例を挙げて説明をしたのはなぜかを問うた。子供は複数の事例によって納得の度合いを高めていること、身近な事例から科学的な根拠を挙げていくことによって「心の時間」を理解しやすくしていることなどを捉えた。ただし、この段階の子供は結論部分に筆者の主張があることを把握しているが、筆者の主張が具体的にどのような意味なのか、または筆者の主張に対して自分はどのように考えているかまでは捉えていない (C0)。

教師の働き掛け	学習活動と子供の姿 ☆変える力
○ 前時までの学習内容を確認する。 ・指示「学習の流れを確認しましょう」 ※ 机を班の隊形にしておく。 ※ 流れを提示し、共通の課題を確認する。 ・説明「前回の授業では、筆者の主張とそれを支える事例との関係に着目して筆者の意図を考えて、本文を読み進めましたね。今日の授業では筆者の主張に対する自分の生き方についての考えをまとめますよ」	○ 前時までの学習内容を思い出す。 ・筆者の主張は、生活の中で、「心の時間」にも目を向けることが大切だということです。「『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使う」ことです。 < 共通の課題 > 筆者の主張や意図を捉え、自分の生き方について考えよう。
○ 筆者の主張及び四つの事例を提示し、自分の生活に当てはめると、どのようなことかを問う。 【働き掛け1】 ・説明「筆者の主張はこれでしたね。主張を支える事例は四つありました」 ※ 筆者の主張及び四つの事例を提示する。 ・発問「『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うということは、皆さんの生活の中でいうと、どんなことですか」 ※ 補助発問「何をするときのどんなやり方ですか」 ・指示「自分の考えをロイロノートに書きましょう」 ※ ロイロノートの操作方法等を説明する。 ※ 記述できない子供が見られても認める。	○ 筆者の主張を具体的に想起する。 < 筆者の主張 > 私たちに必要なのは、「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うという、「時間」と付き合うちえなのです。 < 事例 > ①その人がそのときに行っていることをどう感じているかによって、「心の時間」進み方が変わる。 ②一日の時間帯によっても、「心の時間」の進み方は変わる。 ③身の回りの環境によっても、「心の時間」の進み方は変わる。 ④「心の時間」には人によって感覚が異なる特性がある。 ・「道具として使う」ということがどんな意味なのか、よく分からないな。 ・寝る前に宿題をやるとやる気が起きず、なかなか時間が進まなくて全部できないから夕食の前に宿題をやっていることかな。
○ 表出された考えを共有し、筆者の主張に対する自分の考えをまとめるために、これから考えたいことを問う。 【働き掛け2】 ・指示「考えたことを発表しましょう」 ※ ロイロノートを大型テレビに映す。 ※ 表出されたそれぞれの考えに対して、自分の生活で取り組んでるかどうかを挙手で確認し、共有させる。さらに、筆者の主張を自分の生活に関連付けて考えられたかどうかを確認する。 ・確認「皆さんの発表を聞くと、『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うことを自分の生活に結び付けて考えられる人もいれば、まだよく考えられない人もいたということが分かりました」	○ 筆者の主張に対する自分の考えを自分の生活の仕方に焦点化して考える。 ・大好きなテレビゲームをしていると、時間が経つのが速く感じるから、「時計の時間」で制限をして、あまりやり過ぎないようにしているってことかな。 ・香澄さんの考えがよく分かります。ぼくも同じような経験をしたことがあります。 ・「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うってことは佳輝さんのテレビゲームをするときの工夫のことなのか。これなら、ぼくもしていたよ。 ・私はこれまで、「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うということを意識して生活したことがあまりなかったから、思い付かないよ。

- ・発問「筆者の主張に対する自分の生き方についての考えをまとめるために、これからみんなでどんなことを考えていけばいいですか」
- ※ 補助発問「自分の生活に当てはめて考えられた人は何を考えていきますか。自分の生活にあまり当てはめられなかった人は何を考えていきますか」

< 焦点化された課題の一例 >

- ・「心の時間」を頭に入れて、「時計の時間」を道具として使うという筆者の主張に対して、これからどんな生活を送っていけばよいか。
- ・時間と上手に付き合うために、自分の生活の中でできることは何か。

○ 教材文及び付箋紙を提示して、互いの意見や経験を伝え合う場を設定し、その途中で、誰の考えに共感したり納得したりするかを問う。【働き掛け3】

- ・指示「これから各班に教科書を拡大した物と付箋紙を配ります。本文を読み返しなが、筆者の主張に対する自分の考えを班で話し合ってみましょう」
- ※ 教科書を拡大して一枚にまとめた教材文（学びの足跡を分かるように筆者の主張に関する語や文に横線を付してある）及び付箋紙を各班に配付する。
- ※ 焦点化された課題に対して考えたことを付箋紙に記述するように指示する。このとき、付箋紙を何枚使用してもよいこととする。
- ※ 机間指導をして、対話を深める言葉「分かったよ」「もっと詳しく教えて」「どうして」等のつぶやきが見られた場合には取り上げて、全体にフィードバックし、価値付ける。
- ・指示「一度、話し合いを止めましょう」
- ・発問「誰の考えに共感したり納得したりしますか」
- ・指示「自由に移動して、友達の考えを見てみましょう」
- ※ 席を移動させ、他の班との交流を促す。

○ 友達と対話する活動を通して、筆者の主張に対する自分の考えをまとめる。

- ※ 各班で次のような対話を想定している。

< 対話例① > 自分の考えがある程度まとまりつつある対話

- A 児：楽しいことをしているときは「心の時間」が速く経つように感じるから、そんなときこそ「時計の時間」を意識して過ごすってことだね。★解釈
- B 児：そうだね。そうやって「時計の時間」を意識していくことは、今後の生活に大切だよ。★解釈
- C 児：相手が楽しんでいないと伝わってきたら、自分の「心の時間」もあまり進まないように感じるの、こんなときって、どうすればいいんだろう？★調整
- D 児：そんなときには、「時計の時間」を使って、「何時までにしようか」と言ってみたらどうかな？★調整

< 対話例② > 自分の考えがあまりまとまっていない対話

- E 児：普段の生活で行っていることってある？★解釈
- F 児：よく分からないな。思いつかないよ。
- G 児：複数の人が長い時間、同じペースで作業を進めることがとても難しいって本文に書いてあるから、同じことをしていても「心の時間」の感じ方が人によって違うことがポイントじゃないの？★調整
- H 児：相手の「心の時間」に気を付けて過ごすことだね。★調整

- ・習い事の前後と夕食の後の2回に分けて読書するっていうことなら、ぼくにもできそう。

○ 筆者の主張に対する最終的な自分の考えを問う。【働き掛け4】

- ・指示「ここで話し合いを止めましょう」
- ・発問「筆者の主張に対して、皆さんは最終的にどんなことを考えましたか」
- ・指示「先ほどの班での話し合いを基にして、最終的な自分の考えをロイロノートに書きましょう」
- ※ ロイロノートの操作方法等を説明する。
- ※ 提出箱に送信するように指示する。
- ※ いくつかの記述を取り上げ、全体で共有させる。

○ 自分の考えを表現する。

私は、音楽を聴いている時間が大好きです。自分の好きな音楽を聴いていると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。しかし、塾の宿題や部屋の片付けなどの苦手なことをしているときには、なかなか時間が進まないように感じるがありました。この文章を読んでもみると、楽しいことに夢中になっているときには集中していて、「時計の時間」を気にしないので、「心の時間」がすぐに過ぎるということが分かりました。だから、塾の宿題や部屋の片付けといった苦手なことでも、まず楽しいと思ってみることで「心の時間」が今よりも早く過ぎると思うし、「時計の時間」を無駄にしないで過ごしていけるのではないかと考えました (Cn)。★再構成

(3) 評価

友達と対話する活動を通して筆者の主張を捉え、「『心の時間』を頭に入れて、『時計の時間』を道具として使うという筆者の主張に対して、これからどんな生活を送っていけばよいか」という焦点化された課題に対する自分の考えを書き表せたかをロイロノートの記述で見取る。